

もみじ

—広島山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 登山教室 (2 年 6/8~9 瓶ヶ森~石鎚山、1 年 6/16 広島南アルプス) 報告
2. 県民ハイキング (6/9 恐羅漢山) 報告
3. 国体 S C 競技中国ブロック大会 (6/21~23 島根県松江市) 報告
4. 山のファーストエイド研修会 (6/29~30 三次市) 報告
5. 岳連短信 (寄贈御礼、7~8 月行事案内、写真展案内、韓国大邱広域市高校山岳連盟広島訪問)

1. 登山教室報告

第 3 回 2 年生 6/8(土)~9(日)

登山形態: テント泊山行

山城: 瓶ヶ森~石鎚山 (愛媛県)

人数: 11 名 (スタッフ含)

今回の 2 年生は穂高遠征前の最終訓練で瓶ヶ森~石鎚山に行って来ました。1 日目は雨でしたが 2 日目は雨が止んだので計画通りの行動ができました。

(指導部長 森本 寛)

『岩稜歩き実践 瓶ヶ森~石鎚山(東稜ルート)を終えて』

(登山教室 2 年 佐々木 修)

今回は四国への遠征で、登山教室では今まででいちばん遠方への山行となりました。金曜の夜から出発し、現地に着いてから仮眠をとって、早朝から出発というもののはじめての経験でした。夜中風が強く思ったより寒くあまり眠ることができず寝不足気味でした。

初日は歩荷訓練ということ、水の補給が難しいということで、共同装備を含め 23kg の重量になりました。自分にとってはかなり重い荷でした。途中水の確保で

岩壁を流れる雨水をとる経験が新鮮でした。小雨とガスのなか、ヘトヘトになりながらも予定より早く避難小屋に到着できました。疲れたた身体に夕食がとても美味しく生き返るようでした。そのあと翌日の東稜岩場の核心部に備えてロープワークの講習をしていただきました。事前に細かい確認とイメージトレーニングができてよかったです。

2 日目は途中で水を確保できること、岩稜歩きが待っていることを考え、荷はできるだけ軽くしましたが、それでも疲れた身体にずっしりとききました。天気が回復してきれいな雲海や眺望を楽しみながらでしたが、東稜岩場の基部までの笹藪の急斜面がなかなかきつかったです。核心部の岩場ではロープで確保してもらい、前日の講習のおかげで落ち着いて登ることができました。天狗岳までたどり着いたときにはほっとして、気持ちが楽になりましたが、石鎚山頂神社までも油断できない場所があり、緊張感を保ちながら歩きました。山頂神社でお参りをし、みんなで今回最後のピークでの記念撮影をしました。みんな良い笑顔でした。

あとは下山するだけと、わりと元気に下り始めましたが、夜明峠からの下山ルートが急だったり足元が滑りやすかったりガレていたりして、なかなか苦労しました。途中足を滑らせて派手に転びましたが、幸い怪我もなくよかったです。最後まで油断したらいけないことや後半まで体力がもつよう鍛えないといけないとあらためて実感しました。とにかく長〜い下山ルートでヘトヘトになりましたが、そびえ立つ天中石は見応えがあり、途中のきれいな沢では癒されました。

結局、朝 5 時に出発して下山したのは 18 時をまわっていました。みんなもかなり疲れていたと思います

が、最後までやりきったという達成感でそれぞれ充実した表情だったと思います。強い仲間だなと今回も感じました。きつい山行でしたが、来月の北アルプス行きに向けてとても良い練習になったと思います。一緒にがんばった受講生のみんなと安全に引率していただいたスタッフの皆さんに感謝です。引き続きどうぞよろしくお願いします。



(写真提供 森本 寛 1年生のも)

第3回1年生 6/16(日)

登山形態：日帰り山行

山城：広島南アルプス

人数：12名(スタッフ含)

今回の1年生は歩荷訓練で広島南アルプスを歩きました。午前中は小雨交じりで午後からは晴れと天候の変化はありましたが全員無事歩ききる事ができました。

(指導部長 森本 寛)

『6月の山行を終えて』

(登山教室1年 高田 正剛)

今回の実技山行のテーマは「12kgを担いでみよ

う！」で、「12kg以上になるようにザックの重さを調整すること。」という指示がありました。

私は山行の10日前のMRI検査で、右膝半月板損傷の診断結果が出ていたため、ザックの重量にはこだわらなくて良いと言われていたのですが、暑さ対策で飲み水の量を増やしたことなどから、結局、ザックの重量が、12.5kgになってしまいました。

膝にテーピングをし、高価？なサポーターを着け、普段は邪魔になるので大嫌いなポールを使うのだから大丈夫なはずと自分に言い聞かせ、自宅を出発したのですが、結果は・・・・

今回のルートで1番きつい？登りである登山口～武田山～火山間はまったく問題がなかったので、もっとザックの重量を増やしても大丈夫だったのでは？とか思ったりもしたのですが、大茶臼山から己斐峠への下りで右膝に違和感が生じ、その後、登りは問題がないのですが、下りで右膝が辛く、最後の鈴ヶ峰からの下りでは、左膝をかばっていたために右足も辛くなり、みんなのペースに付いていくことができなくなってしまいました。

己斐峠への下りの途中の展望岩で、懸垂下降の講習(体験)があったせいかもしれませんが、展望岩での講習の後には、登りはどんなに急でもいいので、下りは懸垂下降で、膝に優しく、さっと降れるコースないかなと歩きながら考えていたと思います。

今回の実技山行は、途中でリタイアしなければならなかったかもしれないと思っていたので、最後まで歩くことができ、本当に良かったと思います。これから1か月間リハビリに励み、次の登山教室の山行にはもっと良い状態で参加したいです。



2. 県民ハイキング報告

(広島山稜会 榎田 繁)

6月9日(日) 安芸太田町横川 恐羅漢山

コース：キャンプ場駐車場～立山コース～恐羅漢山～
ナツヤケノキビレ～キャンプ場駐車場

担当：広島山稜会

参加者：一般参加16名、担当団体9名、担当団体以外
会員8名 計33名

行動時間(昼食休憩ほかを含め)：4時間30分
概要

岳連会員の参加者が少なかったのですが、一般参加者はまずまずの参加がありました。そのうちの半分は恐羅漢山を初めて訪れたということで、単独行ではなかなか行けない所というのがこの山の印象なのかなと思いました。そういう人達を案内できることは光栄です。

コースは、立山尾根を登って山頂へ行き、下山はナツヤケコースを下りるという一般的な行程でした。今回のワンポイントレッスンは「恐羅漢山で見られる花」とし、夏の花を中心とした写真集を作成し、出発前に紹介がありました。山中で実際見られたのは、本日のメインであったサラサドウダンツツジを初め、まだ固いつぼみのササユリ、オオナルコユリ、散る直前のヤマボウシなど、地味な花が多かったので、珍しい花を期待した人には残念な状況であったのではないかと思います。

山頂では、前日までの雨が塵芥を洗い落したのか、快晴の中ですばらしい眺望を楽しむことができました。山頂で、山稜会担当者から恐羅漢山にまつわる話をしました。この山が3等三角点で1等三角点とならなかったのは、この山がいかにか険しい山であったかが理由ではないかという見解もありました。

早い昼食終えて林間のナツヤケコースを下り、14時過ぎには駐車場に全員無事に下山しました。

下山後に、広島山稜会の「ひえばた小屋」においてピザとコーヒーでささやかな接待をさせていただきました。

山稜会榎田会長による報告に続けて、豊田理事長による当日の歴史解説を次頁に掲載します。

(以下の写真提供は西部および広島山稜会)



受付、開会式、歴史解説「川本老介」、スキー場を登る



山稜会による植物案内。右下がサラサドウダン



山頂での記念写真と山稜会榎田会長講話



夏焼尾根の風景、出発点に戻り閉会式



ひえばた小屋での接待とこの日のコース

『山上のカバチ〜恐羅漢編〜』

* 恐羅漢スキー場麓、川本老介顕彰碑前にて

(豊田 和司)

皆様、これが広島県のスキー普及の功労者、川本老介の顕彰碑です。川本氏は、昭和2年に新潟にスキーを習いに行きます。それがなぜだかわかりますか？川本氏の父親は郵便局長でした。この度元号が、平成から令和に変わりました。この事は皆様のもとに、さまざまなメディアから届けられたと思います。大正から昭和に元号が変わった時、当時は今よりも皇室に対する敬意が大きく、郵便局長としては、大正天皇が崩御された報告を一刻も早く各戸に電報で届けなくてはならない。なのにたまたまこの地方を襲った豪雪で

それがままならなかったため、息子に当時の最新技術だったスキーを習わせようとしたのです。

川本氏は私財を投げうって地元の小学校にスキーを寄付するなどしてスキーの普及に努め、ついにはこの恐羅漢スキー場を開設するに至りますが、彼が父親から強制された義務感だけからスキーを習ったのであれば、それほど熱心にならなかったと思います。彼は心底スキーを面白いと思い、夢中になったのだと思います。しかも、面白いものを独占しないで、仲間に広めたいという情熱の持ち主だったのだと思います。

日本のスキーは、明治44年に陸軍第13師団歩兵58連隊がオーストリアのレルヒ少佐を招いて新潟県の高田でスキーの講習会を行ったのが始まりです。何と、この講習に出て、大正2年に広島に帰って来た人物がいます。のちに広島山岳会の創始者のひとりとなる町井剛氏です。川本氏は41歳の若さで自動車事故がもとで昭和20年に亡くなりました。この碑文は、町井氏によって書かれ、日本海を遠く望むこの地に建立されました。

碑文を読みます。(カッコ内は筆者注)

「広島縣(県)ニ於ケルスキーノ先覚者トシテ且又(かつまた)本縣ニ於ケルスキーノ普及向上、并ニ(ならびに)發(発)展ニ對(対)シ絶大ナル寄與(与)ト貢獻ヲ積マレタル巧勞(功勞)者トシテソノ巧(功)績ヲ永久ニ傳(伝)フベク君ト因縁最モ深ク本縣スキー發(発)祥ノ地ト稱スベキ此地ヲトシ(ぼくし、占うこと)コノ碑ヲ建立スルハ意義甚ダ(はなはだ)深キモノアリ君ガ苦心建設スルヒュツテハ眼下ニアリ遠ク聖(ひじり)深入苜尾ノ峻嶺ヲ距テ、(へだてて)日本海ヲ賄(俯か?)瞰ス。君ガ好ンデ馳驅(駆、ちく、駆け巡ること)セル雄大ナル道場ナリ。碑前ニ額(ぬかず)ク者誰カ君ガ面影ヲ偲バザル、誰カ君カ(が)功績ヲ稱ヘサル。追慕ノ情堪ヘ難ク君ガ早折(若く亡くなる事)ヲ惜ムノ念切ナル者相諮リ(あいばかり、相談し)、茲(ここ)ニ記念ノ碑ヲ建立シ後世ニ傳ヘントス。君亦(また)瞑ス(めいす、安心して眠る)ベキナリ。

吹雪狂ふ立山尾根に佇(たたず)めば聖の嶺は雪の上にあ里(り？万葉仮名か？これは町井氏作の短歌と思われる)

昭和二十四年十月十二日

広島県スキー山岳連盟會（会）長醫學（医学）博士
町井剛謹記

この記事を書くに当たり、瀬尾幸雄さんの『山の人生60年恐羅漢の山里を訪ねて』（平成22年かがわデザインスタジオ）を参考にさせていただきました。

3. 国体SC競技中国ブロック大会報告

6月21日(金)～23日(日)に島根県松江市(旧千酌小学校体育館・Mウォール)で第74回国民体育大会中国ブロック大会スポーツクライミング競技が行われ、本県チームは成年女子2位・少年男子1位・少年女子3位の成績を収め、成年女子と少年男子が10月に茨城県で開催される本国体への出場権を獲得しました。

出場選手・監督は以下の通りです。

【成年女子】監督：錦織宏美 選手：錦織美里（県立広島大）・山下真由（日本体育大）

【少年男子】監督：延近昌彦 選手：延近陸空斗（福山葦陽高1年）・田坂桔平（府中緑ヶ丘中3年）

【少年女子】監督：田坂耕一 選手：岡崎遥（広島国際学院高3年）・大藪杏理奈（井口台中3年）

なお、成績の詳細と茨城国体応援団宿舍の手配について連盟のホームページに掲載しています。

また、錦織競技部長からコメントが届きましたので、次頁に掲載します。（西部）

（以下の写真は西部・豊田・選手保護者提供）



旧千酌小学校体育館内に設けられたリード競技会場



開会式での広島県選手団



1日目リード競技オブザーベーション



健闘した広島県選手たち



2日目ボルダリング（Mウォール）



表彰を受けた広島県選手・監督



応援団も一緒に

【コメント】 (錦織 宏美)

少男は、初めての選手でブロック大会に挑むため、緊張で硬くなる事を心配してたが、そんな心配をよそに、のびのびとプレーし、持てる力を十分発揮できたことが、結果に繋がり、一安心。

少女は、初日のリードが3位と2日目のボルダーの出来次第で通過枠に滑り込める可能性はあったが、焦りもあったか、本来の力を発揮できず残念な結果となった。今回の選手には、次に向けて奮起を期待したい。

成女は、最もブロック大会突破が厳し 카테고리であるが、初日のリードで鳥取を押さえて2位と好発進、2日目のボルダーも気を引き締めて挑み、見事に突破。

今回、各種別ともブロック大会を突破するチャンスが十分あり、本国体のフルエントリーを個人的にも目標に掲げて挑みましたが、達成できなかったのは、くやしさが残るが、各選手の頑張りに感謝。

4. 山のファーストエイド研修会報告

(指導部長 森本 寛)

趣旨：救急医療サービスを直ぐに受けることができない山で事故に遭ったとき、その被害を最小にするための対応と、予防するための対策についての研修

日時：2019 年 6 月 29 日(土)8:30 受付 9:00～18:00

6 月 30 日(日)8:00～12:30

場所：広島県三次市「ほしはら山のがっこう」

講師：(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会

医科学委員会・遭難対策委員会委員 ^{いさお} 恵 秀彦 氏

参加者：44 名(スタッフ含む)

研修内容：

1. 山のファーストエイドとは
2. ファーストエイドの手順(一次救命処置のポイント)
3. 高エネルギー事故の対応
4. 熱中症の予防と手当
5. 山で起こる小さなトラブルの手当
6. 総合演習 (シナリオベースでの実施と検証)
7. 質疑応答

今回は JMSCA より恵先生を講師にお招きして実施しました。参加者は加盟団体員 29 名、個人会員 12 名、非会員 3 名と多くの方に受講していただきました。私自身、何度も受講しているはずなのですがその都度忘れていた事に気づかされますので日頃から繰返して訓練する必要性を強く感じました。

以下、参加者の感想文を掲載します。

『山のファーストエイド講習を受講して』

(日本山岳会広島支部 吉部 恵理)

今回は合宿気分で、休校を利用した‘ほしはら山の学校’から楽しみだった。雰囲気ある校舎でガラス窓から見える緑が綺麗だった。生憎、夜から雨で満点の星空も早朝の岡田山登山で雲海を眺めることも出来なかったけれど、たくさんの山仲間と一緒に学べ中身の濃い 1.5 日間の講習だった。

恵先生のご説明はわかり易く、応急処置は見ていると簡単に見えるけれど、実際やってみようとするともう手順を忘れていた。救急でどんなことが行われているか、どう対応すべきか初めて見聞きして考えるきっかけになった。サムプリントを初めて知った。昨今

の戦争で救急医療技術が進歩しているという話は現実味があり衝撃だった。

いざと言う時は落ち着いて行動したい。せめて三角巾が手早くたためるように、包帯がくるくる綺麗に巻けるように練習しよう。買って帰った本を読んで講習内容を復習しよう。救急措置は山でなくても役立つ知識なので今後も積極的に学習し身に着けたい。

『山のファーストエイド研修会』

(広島市安佐北消防署 古堂 英幸)

今年 2 月に安佐北消防署で消防職員に対する登山講習会で指導していただいた繋がり、今回岡谷様から「山のファーストエイド研修会」開催の紹介をしていただき、参加させていただきました。研修内容は登山で発生しうる様々な事例をもとに、応急処置方法の講義及び実技が実施されており、非常に実践的な研修であったと感じました。また、他の参加者の方とも研修、食事等を通して交流することができ、大変貴重な経験をさせていただきました。

救助要請・活動を行う際、情報収集、発生場所の特定、救助隊到着までの対応、情報等に基づく救助隊の活動方針の決定等、円滑な救出を行うためには通報者(登山者)と消防の連携が必須となります。今後もより安全な登山、救助活動を行うため、岳連と消防が積極的に情報交換や合同訓練等で連携強化を図っていきたいと思います。

『2019 年度「山のファーストエイド」研修会を終えて』

(広島県庁山の会 大上 龍祐)

初めまして！広島県庁山の会所属の大上龍祐と申します。初めて『もみじ』に寄稿させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、いきなり私個人の話で恐縮ですが、中学の部活から登山を始めて、途中中断もありましたが 20 年近く経ちました。しかし、これまで本格的なファーストエイド研修を受講した経験がなく、かねてより緊急時の対応を学べたら良いなと思っておりましたので、今回の研修に参加させていただきました。

研修では、山で発症したら危険な疾患から、山行でよく経験する捻挫などの対応まで幅広く教えていた

だき、今後の登山に役に立つことばかりでした。個人的には足をひねったことがあるので、様々な固定方法を教えていただき大変勉強になりました。また最後に実施されたロールプレイングは、緊急事態に直面した時の良いシミュレーションになりました(自分は右往左往するばかりでしたが><)

まったくの初心者のため、内容が理解できるかしらと不安も抱えて参加しましたが、講師の恵先生の教え方が丁寧で分かりやすく、先生のとても気さくなお人柄もあって楽しく研修を受けることができました。恵先生、本当にありがとうございました。

また貴重な講習会の機会を作ってくださった皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。研修はもちろん、研修以外の部分でも気持ちよく過ごさせていただきました(夜の交流会も大変楽しませていただきました)。

参加されたみなさま、本当にありがとうございました&お疲れ様でした！

『ファーストエイド研修に参加して』

(個人会員、登山教室 1 年 池田 敦)

広島県山岳・スポーツクライミング連盟の登山教室にこの 4 月から参加して、6 月末にこの研修があることを知り、初めて参加しました。

半日程度の救命講習や AED 講習は、受講した経験はありましたが、1 日半の長丁場の研修は初めてで、登山教室の訓練の一環と思い、参加させていただきました。

会場の「ほしはら山のがっこう」は、廃校になったところとの案内がありましたので、外観はまったく想像したとおりでした。施設設備は思いの外というと、施設の方には失礼かもしれませんが、トイレがキレイな水洗であったのは、予想外で、嬉しかったです。

マキストーブに火の入る時期に、また来たいと思いました。

夜はホテルが見ることができるのではないかと、期待しておりましたが、残念ながら当日は雨が降って翌日の登山も中止になりました。

研修の内容は盛り沢山で、私にとっては、力量の関係だと思いますが、少々消化不良気味に感じました。

しかし、講義の一つひとつは、山での事故に対し、必要と思われることが網羅されており、どれも必要な知識と思われ、実践できるようになりたい技術でした。

どの項目も、先生がやって見せてくれて、次に研修生同士がペアになって実技を行うのですが、その時はできても一日経つと、あやふやな自分がいるので繰り返しやっていく必要があると感じました。

話がずいぶん飛躍するのですが、先生の話のなかに危険な場所の話などが出てきた時、昔読んだ新聞記事を思い出しておりました。諸説あるでしょうが、人と猿の共通の祖先はアフリカ中央部にいて、人とチンパンジーなど類人猿を分けた要因が、人の祖先は、先のことを考え、苦しくても行動することができ、他の大陸などに移動することができたからだというものでした。そういう遺伝子をもった種が人類なのだというものでした。

人は、先を考え、自らリスクを負って苦しくても行動に移すという遺伝子を持っている以上、いろんなところで、事故に対処できるようにすることは、必要なことなのだと自分勝手に納得して講義の話聞くことに戻りました。

私も、数年前、白山に登り、他の山にも登りたいと思い、年に2から3回程度、山に登っておりました。はじめの頃は無理をせず、自分に登れる山に行けばいいと思っておりましたが、徐々に高い山や岩場も行きたいように思うようになっております。危険が増すようになることを望んでいる自分がいるので、今後ともファーストエイドに取り組もうと思っています。



(以上写真提供 森本 寛)



研修会の様子。右は「ほしはら山のがっこう」



5. 岳連短信

1. 寄贈御礼

三原山の会『筆影』No. 472 (7月号)

福山山岳会『会報』R元. 7月号

広島やまびこ会『やまびこ』No. 759 (8月号)

2. 7～8月の行事案内

(集合時間・場所等の詳細は当連盟ホームページの「岳連カレンダー」のページを開き各行事をクリックすると確認できます)

7/20 S C 中国地区ユース選手権 (鳥取県倉吉市)

7/21 県民ハイキング (三段峡)

8/2～6 インターハイ登山大会 (宮崎県祖母山系)

8/3～4 岳連例会山行 (石鎚山)

8/11 「山の日」記念全国大会 (山梨県甲府市)

8/25 県民ハイキング (東広島龍王山)

3. 写真展の案内

昨年まで当連盟所属団体の「ひこばえ」(昨年度末解散)が行っていた写真展を引き継ぐ形で、第1回「広島県山岳・スポーツクライミング連盟写真展」が9/16(火)～9/22(日)に広島市中区大手町のNHKギャラリーで開催されます。

4. 韓国大邱広域市高校山岳連盟広島訪問のお知らせ

韓国大邱広域市高校山岳連盟が2年振りに広島を訪問します。期日は7/21～25です(詳細はホームページに掲載)。積極的な交流とスタッフ協力・資金等のご支援をよろしくお願いします！

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。



その他の研修会風景



1日目夕食(三村さん差し入れの獅子鍋!)と参加者自己紹介

(以上写真提供 西部)